
麦類種子低温処理試験

野田健児・茨木和典

(九州農業試験場)

1948~'49年, 1949~'50年に麦類種子低温処理の収量に対する効果があるかどうか, また生育過程に対する影響はどの様であるかの試験研究を行つた. その要

点をのべると収量及び収量構成要素に対する有意的な差は考えられない. 生育過程においては幼穂の分化発達, 出穂期等に対しては多少促進的な効果がみられ

る。また生育過程における 2, 3 生理的性質についての比較を行つたが、生育相そのもののズレがあるため明確な結論は下しがたかつた。上記 2 ヲ年のかんさつは当地域の代表的品種である小麦農林 61 号と稈麦赤神力を主体として行つた結果であるが、さらに品種に

よる低温処理の影響の差ということが考えられるときこの点を充分検討しなければならないことが考えられた。

(内容の詳細については 1950~'51 年のかんさつも含めて別の機会に報告する予定である)